

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：岡本 敦子 所属：京都市立桃陽総合支援学校 記録日：2017年 2月 15日  
キーワード：かかわる！ つながる！ 前籍校への移行に向けて ～病弱支援学校での取組～  
交流 見通し コミュニケーション 病弱

## 【対象児の情報】

- 学年 小学3年生 女児
- 障害と困難の内容
  - ◎広汎性発達障がい
  - 病弱（不安障害）
- こだわりと不注意があり、集団に適応しにくく、計画や予定に合わせた活動が苦手である。
- 身体接触を嫌がり、興味関心が他児と異なるため、同年代の児童との関わりや共有できる体験が少ない。
- 小学2年生から不安障害による入院に伴い、病弱特別支援学校（本校）に入学
- 少人数の環境の中で不安障害の症状は軽減したが、新しいことに不安が強くなることもある。

## 【活動目的】

### • 当初のねらい

京都市立桃陽総合支援学校は、病気で入院する子ども達が通う学校であり、子ども達はやがて退院し、前籍校に復帰する。子ども達が前籍校に戻り、生き生きと学校生活を送れるようにしたい。対象児の前籍校復帰を見通し、次のような目標を設定した。

#### ① 学校や病院生活で、予定を把握し、見通しをもって時間を守って行動する。

現在の学校や病院の環境のもとでは、不安が軽減した状態で生活しているが、同学年だけでも50人近い前籍校に戻った時には、不安が強くなることが予想される。全く違う環境のもとでも、自分の予定を把握し、行動できる力をつけることで、不安を少なくし安心して過ごせるようにしたい。

当初は、学校での活動を想定していたが、活動の範囲を病院にまで広げる。病院生活の中で、学習の用意や宿題、歯磨きなど、病院スタッフによる声掛けや手伝いがなくても、自分でできるようにすることを目標とする。

※実践を進めていくにあたり、対象児の様子からめあて①を下記のように変更した。経緯については、「ねらい①の見直し（p.4）」に記述する。

めあて① 学校や病院生活で、予定を把握し、見通しをもって行動する。（「時間を守って」を削除）

#### ②前籍校の友達と交流をする。

#### ③本校の友達との遊びをはじめ、さまざまな関わりを経験する。

#### ④保護者とのコミュニケーションを通して、活動の意欲を高める。

### • 実施期間

#### ① 予定を把握し、時間を守って行動する。6月～9月

予定を把握し、見通しをもって行動する。10月～3月(予定)

#### ② 前籍校の友達と交流をする。7月～3月(予定)

#### ③ 友達との遊びをはじめ、さまざまな関わりを経験する。4月～3月(予定)

#### ④ By Talk For School での保護者とのコミュニケーションを通して、活動の意欲を高める。6月～3月(予定)

### • 実施者 ①櫻井 晃司 ②岡本 敦子

### • 実施者と対象児の関係 ①担任 ②昨年度小学部長 現指導部長及び研究部長

## 【活動内容と対象児の変化】

### ○対象児の事前の状況

- ・不安障害のため、隣接する病院にて、2年生4月から入院し、病弱の支援学校である本校に通学して学習している。
- ・前籍校では、他児からの身体接触があるとパニックを起こしていたが、3年生の4月当初は落ち着いていた。不安の症状は少なくなっている。

#### ①予定の把握と時間管理にかかわって

- ・時間を守ることに意識はしているが、物事に熱中しすぎたり、不注意だったりして、次の活動への切替や活動場所に移ることに時間がかかる。
- ・登校は5～10分遅れることが多く、病院スタッフの声掛けや付き添いが必要。
- ・「今すべきこと」が整理できず、翌日の学習の準備や宿題、歯磨きなどを自分からすることが難しい。学習準備や宿題は、病院スタッフが対象児の予定表や担任のメモを見て、声掛けをしたり、手伝ったりしている。それでもやりきれず、忘れてくることがある。
- ・朝の登校がスムーズにいかない原因のひとつは、その日の準備ができていないことである。

#### ②前籍校の友達との交流について

- ・昨年度は前籍校の学習発表会のビデオを送ってもらい視聴した。対象児は、生活科の学習の様子をビデオレターにして送った。互いの感想を担当を通して伝えあった。対象児と前籍校児童との直接の交流はない。
- ・週末は外泊しているが、前籍校の友達との交流は、出会ったときに会釈をする程度である。

#### ③友達との関わりや体験について

- ・クラス(3,4年生)の在籍は対象児1名で、子ども同士の関わりあいや学びあいが少ない。
- ・友達と遊んだ経験が非常に少ない。
- ・大人とは、会話を楽しんだり、遊びに誘ったりすることは増えてきたが、自分から友達に関わりに行くことはほとんどない。

#### ④保護者とのコミュニケーションについて

- ・週末の外泊以外は、保護者と会うことはできない。その日のできごとやがんばったことを報告したり、コメントをもらったりすることができない。

※対象児が入院している病院では、通信機器の持ち込みは認められておらず、タブレット等の使用は学校登校中に限定することを条件として5月末に主治医から許可を得た。

### ○活動の具体的内容

#### ①予定を把握し、時間を守って行動するための取組

- リマインダーアプリに、平日の始業時刻や授業の始まりの時刻及び音声通知をするようにセットし、それを活動の切替や移動のタイミングとする。

- ・導入からしばらく、音声通知があったときに担任が音声を止めていたときは、聞こえてはいるものの、あまり気に止めていない様子だった。2週間たった頃に、担任が音声を止めなかったところ、音が鳴り続けるのを嫌がり、自分でとめた。それをきっかけに、通知があるとすぐに自分で止めるようになった。

- ・休憩時間、教室外に出る時は、担任が iPad を携帯していき、音声に気がつくと同時にそれまでの活動をやめて教室に戻るようになった。
- ・特別教室への移動に時間がかかっていたが、7月上旬には60%の授業は間に合うようになった。

体育は10分程遅れて入っていたのが2分程の遅れで入れるようになった。

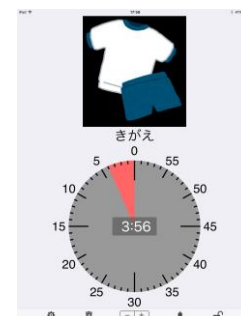
- ・4月当初は、10分程遅れての登校だったが、担任の迎えや友達・病院スタッフの声掛けにより、次第に早く登校できるようになってきた。学校には始業のチャイムがなる8:30に着いているものの、そこから教室に向かうまでにいろいろなことに注意が向いてしまい、かなり時間がかかっていた。対象児は、5月上旬に「8:28 教室着」を自分の目標とし、6月上旬にはリマインダーの通知が鳴る8:30に教室に入れる日が増えてきた。
- ・夏休み明けに登校や活動の切替のリズムが崩れたが、1週間程度でほぼ回復した。



iPad アプリ「リマインダー」

◎授業時間内や休憩時間に「絵カードタイマー」を活用し、活動の残り時間を視覚化することにより、見通しをもって活動する。

- ・体操服の着替えに10分程かかっていたが、タイマーの設定時間を徐々に短くしていき、7月上旬には5分で着替えができるようになった。
- ・休憩時間の残り時間をセットすることで、読書や遊びを時間内に終わることができた。
- ・朝のスピーチの時間把握にも活用し、ちょうど1分間のスピーチもできるようになった。



iPad アプリ「絵カードタイマー」

◎毎日の帰りの会で、翌日の持ち物や宿題、病院に帰ってから必ずすることなどを確認する。その際に担任がその内容をひとつずつ書いた付箋紙を持ち帰り、病院に戻った時にそれを見て活動できるようにする。

◎ごほうびシールアプリを活用し、自分で立てた目標を達成できたらシールを貼る。



iPad アプリ「ごほうびシール」

- ・帰りの会で、自分で決めた目標に対してできたかどうかを振り返ることで課題を認識したり、「できた」の思いを積み重ねたりすることができた。
- ・6月初め、対象児は、「明日の準備をする」と「時間を守る」という二つの目標を立てた。病院スタッフが担任の書いた付箋紙を見て、宿題や準備を促してくれたこともあり、スタッフの声掛けに応じて努力する姿が見られた。
- ・ごほうびシールアプリで、最初は10個のシールを貼ることをゴールとして取り組み、ほぼ1ヶ月かかって達成し、宿題と準備は7割ほどできるようになった。
- ・しかし、病院ではスタッフ、外泊時は保護者の声掛けが必要で、自分から進んですることはまだ少ない。



担任と「ごほうびシール」を貼る

●ねらい①の見直し

「予定を把握し、時間を守って行動する」 ⇒ 「予定を把握し、見通しをもって行動する。」

9月末に前半の活動を振り返った。

- 「時間を守る」という目標は、4月当初、対象児自身が立てた目標である。しかし、9月に対象児と指導者が目標について話し合ったとき、「時間を守ることが自分にとってプラスになっているとは思わない。でも時間は守らないといけないものだから目標にした。」という内容のことを話していた。4月からの様子を振り返ると、対象児が時間を守らないことで困っているのは、指導者やまわりの子ども達であって、本人ではなかった。「時間を守る」という目標が本人にとっての必然でないことがわかった。そこで、今後の学習目標①を「予定を把握し、見通しをもって行動する」に変更し、取り組んでいくことにした。
- 学校では、朝の会で個別のホワイトボードで1日の予定を担当といっしょに確認し、声掛けしてもらいながらその流れに沿って活動している。しかし、病院では登校、宿題、翌日の準備、入浴、歯磨きなど、日常生活のリズムがなかなかつけれない。病院スタッフによると、繰り返しの声かけや手伝いをしてなんとか7、8割できているということだった。そこで、後期は、自分で見通しをもって行動できるように取り組んでいくことにした。

◎予定を把握しひとつひとつ確認しながら行動できるように ToDo アプリ「はなまる」を使用した。病院に帰ってから就寝まですべきことを指導者といっしょに確認し、スケジュールに設定して取り組んだ。



iPad アプリ  
「はなまる」

※病院では、モバイル端末等の持ち込みや使用は禁止されている。しかし、8、9月に病院長や主治医に、魔法のプロジェクトの主旨やこれまでの取組による対象児の変容について話す中で、少しずつ理解を示してくださるようになってきた。iPadのアクセシビリティ「アクセシガイド」を設定することで、ToDoアプリのみを使用するという条件のもと、病室での使用を認めてもらうことができた。対象児とルールを確認して使用した。

病院でのスケジュールを設定  
できるとスタンプを押していく

- 病院に帰るとまず、iPadを充電器につなぎ、机の上に置く。  
(アクセシガイドの設定により、スリープにならないため充電が切れてしまう) 帰院後の生活のスタートである。
- 宿題の「音読」「日記」「算数」「漢字」、「翌日の準備」、「入浴」、「はみがき」等、すべきことが終わるとiPadの画面に表示された項目にスタンプを押し、ひとつずつクリアしていった。
- 看護師さんによると、「声掛けがないとなかなかできず、『はなまる』を見ること自体を忘れることもある。」ということだった。しかし、できたこと、できていないことを視覚的に把握することで、全部クリアしようという意識が出てきた。対象児も「やるのがわかるから続けたい」と言ったため活用を継続している。
- 1月に同学年の児童が入学してきた。病院でも同室となり、その児童から声掛けをもらいながら取り組み、毎日クリアしている。同室の児童は「早くはできないけどがんばってるよ。」と話している。



全部クリアすると、やったね!!の  
ご褒美の画面が出てくる。

## ②前籍校との交流のための取組

◎京都市教育委員会が契約しているNTTのテレビ会議システム「MeetingPlaza」や「FaceTime」を活用し、前籍校と本校をつないで交流する。



Face Time



PowerPoint

◎学校での様子をパワーポイントのスライドにまとめたものや学習作品等を前籍校に送り交流する。

7月：対象児に「(テレビ会議で)前籍校にあるもので見てみたいものはないか」と聞いてみた。昨年度、図書室で「ミシンのひみつ」を読んでから、ミシンに興味をもっていたことから、「前籍校のミシンはどんなのか見てみたい」と担任に話した。前籍校の友達との交流に向けて、対象児が興味をもっている「前籍校のミシンを見る」ことを第一のステップとした。前籍校には、昨年度本校小学部で馴染みのあった教員が転任していたため、対象児の希望もあり、その教員に前籍校にあるミシンを紹介してもらった。「ポピンはどんなふうに巻きますか」など熱心に質問し、ポピンの入れ方が自分の知っているものと違っていることに驚くなど、前籍校のミシンに興味津津だった。昨年度は交流のビデオを撮る際に、聞き取りにくい小さな声で話していたが、7月のテレビ会議では、しっかりと聞き取りやすく話すことができた。



テレビ会議で前籍校絵のミシンを見せてもらう



パワーポイントで音声入りスライドを作成し、学校生活の様子を紹介

9月：4月から7月までの学校での様子をパワーポイントを使ってまとめた。対象児が写真を選んでスライドに貼り付けたものである。どのような活動かがわかるように対象児の声で説明した音声ファイルを挿入して仕上げ、前籍校に届けた。

10月：前籍校から理科の授業を配信してもらった。「知っている友達はいない」と言い、あまり関心なさそうだった。

※前籍校の教室には、前もって機器の設置とコンピュータの設定を行い、簡単な操作でテレビ会議の接続ができるようにしておいた。

11月：FaceTimeで前籍校の体育館から学習発表会の劇を配信してもらった。劇を見ながら「〇〇ちゃんはいないなあ」と知っている友達がいなくて気にしていた。

対象児はカメラに映ることに抵抗があるため、理科の授業、学習発表会は受信するだけにした。

11月末：商店街の社会見学に本校の職員が同行し、その様子を「FaceTime」で配信したものを視聴。初めはカメラに映るのを嫌がっていたが、友達から呼び掛けられると、カメラに映り手を振って応えた。



前籍校から理科の授業を配信してもらって見ている。(配信のみ)



前籍校の校外学習の配信。友達の呼びかけに手をふって答える



前籍校の担任の先生とテレビ会議先生と話すのは1年8ヶ月ぶり

12月末：放課後に前籍校の担任の先生とテレビ会議で話す。10分程、先生や友達のことについて質問するなど、笑顔で会話をした。苦手なカメラにも真正面から映り一生懸命がんばったようで、終了後は疲れた様子だった。

1月：公開授業があり、前籍校の担任の先生が来校。対象児が顔を合わせた瞬間、うれしそうに手を振った。この日、クラス全員の児童が対象児宛に書いた手紙を担任の先生が持ってきてくれた。一人一人の手紙を一生懸命読んでいた。授業では、はりきって発表していた。

2月：「By Talk for School」のチャットに前籍校の担任の先生も参加していただき、学校の様子なども知らせてもらうようになった。

### ③友達との遊びをはじめ、さまざまな関わりを経験するための取組

◎さまざまな人と関わりをもったり、遊びを体験したりする。いろいろな人と話す、友達（在籍している6年生）を誘って遊ぶ。対象児の興味関心に合わせ、必要に応じてiPadアプリを活用する。



iPad アプリ  
「ゆっくり百人一首」

・はじめは、対象児にとって馴染みのある本校教職員との関わりを増やすことにした。教職員の写真をスライドにしたものを繰り返し見せながら名前を覚えた。その後、職員室を尋ね、好きな食べ物や好きなことを質問したり、自分の決めた話題で会話をしたりした。実施前は顔も名前も覚えていない教職員が多かったが、たくさんの教職員と話すことで、何かしてほしい時に「〇〇してください。」など、自分の要求をしっかりと話せるようになった。



友達や先生を誘って百人一首

・友達に自分から声をかけて遊ぶよう、指導者が促し、百人一首やかるた、外では虫とりをしようと呼ぶようになった。自分達で百人一首をするときには、iPadアプリ「ゆっくり百人一首」を活用し、自分達の取るスピードに合わせて再生して楽しむことができた。

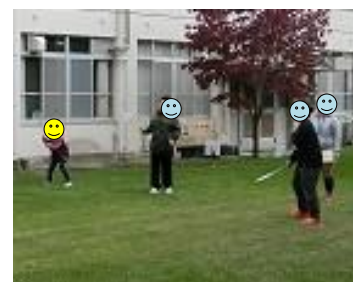
・自分から関わろうとすることはまだ少ないが、先生や友達と遊ぶようになり、「いっしょに遊ぶ」ことの楽しさを感じるようになった。



運動会のダンスの練習



学習発表会に向けて合奏練習



休み時間に友達と外遊び

・9,10月に対象児のクラスに5年生が2名入学してきた。友達の声掛けに応じ、少しずつ移動や行動の切替がスムーズになってきた。運動会の集団演技や競技、音が大きくなる合奏の練習等は対象児が苦手とする活動だったが、友達と一緒に頑張る姿が多く見られた。また、ひとり遊びが少なくなり、友達と外遊びをすることが増えていった。

・1月に同学年の女儿が入学してきたことで、さらに友達との関わりが増えた。移動のときなど、先に行った友達を追いかけていくなど、声掛けがなくても自分から行動できることが少しずつ増えてきた。

※当初、友達との関わりを増やすために対象児が興味関心をもちやすいアプリを活用することにしていたが、友達との直接的な関わりが増えたために必要でなくなった。

#### ④活動を支える母子のコミュニケーション

◎登録制による安心安全な SNS アプリ「By Talk for School」(以下「By Talk」)を活用し、対象児がその日楽しかったことやがんばったこと、発見したことなどを帰りの会で書く。母親がその内容に対してのコメントや励まし、もっと教えてほしいことなどを書き、翌日の朝の会で読む。

#### ※入力について

対象児の希望でローマ字入力を基本としながら、ひらがなのフリック入力、50音順配列のひらがな入力など、やりやすい方法で入力した。

- ・帰りの会で、その日の中で知らせたいことをいろいろと思いだして書いた。モンシロチョウやカブトムシの飼育、初めてザリガニにさわったこと、友達と遊んだこと、時間を守ることについての報告、ごほうびシールの進捗、書くことはさまざままで、今日は何を知らせようか悩みながら、メッセージを考えていた。
- ・翌日の朝、母親からのメッセージを読んだ。いつもは週末にしか会えない母親からのメッセージを見るときはとてもうれしそうだった。
- ・母親からは、励ましのコメントのほか、体への気遣い、対象児に知らせたいニュース、時には少し厳しいアドバイスなども書かれていた。
- ・「By Talk」での母親とのやりとりが活動に対するモチベーションの向上になるとともに、母親に1日の様子を知らせることを通して、その日の振り返りを行うことができた。
- ・2月初めから前籍校の担任の先生に「By Talk」のチャットに参加してもらうことになった。クラスの学習や友達の様子を教えてもらい、さらに前籍校が身近なものとなった。



iPad アプリ  
「By Talk for School」



朝の会でメッセージ確認



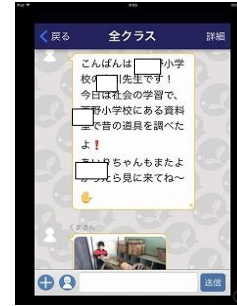
テレビ会議で知っている先生と話した。



お母さんからの励ましのメッセージ。



前籍校の先生が手紙を持ってきてくれた。



前籍校の先生からメッセージが来た。

※当初のねらいでは、「By Talk」は、活動を支えることを目的とした母子のコミュニケーションツールと考えていた。しかし、前籍校の先生との関係ができてきたため、本人、保護者、前籍校担任の了解のもと、前籍校への思いをつなぐツールとしても活用することにした。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ○主観的気づき

- ①学級の友達がふえ、さまざまな経験を積み重ねることで、人との関わりに意欲的になったのではないか。
- ②本校の友達との関わりを通して、行動の切替や時間を守ることができるようになったのではないか。
- ③本校での友達との関わりの変化とテレビ会議でのつながりにより前籍校との交流に抵抗がなくなったのではないか。

### ○気づきに関するエビデンス

#### ① 人との関わりに意欲的になったこと

- 9月：学級に2名の入学があり、友達との会話が増え、「いっしょに行こう」「〇〇しよう」など声をかけてもらい応じるようになった。
- 10月：上旬からは友達といっしょにバトミントンなどをして遊ぶようになった。
- 12月：遊んでいるとき、「替わって」と声をかけ、自分の要求を伝えることができた。
- 近隣の学校から生活科の「秋祭り」に招待され、交流した。たくさんの児童の前で自己紹介をしたり、「遊びの店」で自分から話しかけたりすることができた。

◎「By Talk」で、夏休みまでは、友達に関わる書き込みはほとんど見られなかった。⇒友達の入学後、友達との関わりに関する書き込みが増えた。（右表参照）

「By Talk」への友達との関わりに関する書き込み

月	回	内容
6	1	体育でのかくれんぼのルールと負けて悔しかったこと
7.8	0	
9	3	友達の入学・体育で楽しかったこと
10	4	友達の発表・友達と話したこと 遊んだこと
11	4	友達と遊んだこと・前籍校の友達のこと
12	4	友達の入学・友達の紹介
1	4	友達の入学・前籍校の友達との関わり（前籍校の先生とのやりとり）

※2月以降は他児との関係で、By Talkの使用が週1回になったが、前籍校の担任にもチャットに参加してもらい、やりとりが書きこまれている。

#### ②行動の切替や時間を守ることができるようになったこと

- ・「リマインダー」による時程の音声通知、「絵カードタイマー」による活動時間の視覚化を行った。4月当初10分遅れの登校だったが7月には遅刻がほぼなくなった。（病院スタッフの付添で）授業開始に60%間に合うようになり、体操服の着替え時間も短縮した。
- ・友達と行動をともにすることが増え、学校では行動の切替がスムーズになった。付添なしで登校ができ、授業にも遅れることがなくなった。12月は100%遅れずに教室に入ることができた。
- ・9月以降入学してきた3人（5年生）に加え、1月に入学してきた同学年の児童との関わりが増え、行動の切替がさらにスムーズになった。病院への帰院に時間がかかっていたのが、声掛けがなくても、自分から友達といっしょに帰ろうとする日も出てきた。





### ③前籍校との交流に抵抗がなくなってきたこと

7月：対象児が興味をもつミシンをテレビ会議で見せてもらうことを前籍校との交流の第一歩して実施。  
ミシンへの興味が大きく積極的に話す。(話の内容はミシンのみ)

10月：本校の友達と関わることへの意欲が出てきた。(①で記述)

テレビ会議でカメラに映ることには抵抗があるが、友達の呼びかけがあると応対や会話ができるようになってきた。

11月：前籍校の友達の名前を口にできるようになってきた。

外泊時に友達と挨拶をしたり、家や公園で友達と遊ぶようになってきた。家では、別々にゲームをする、公園でも遊ぶ場を共有する程度に関わり合いながら遊んでいるわけではないが、つながりができてきた。

12月：担任の先生とテレビ会議で会話をする。先生や友達のこと質問したり自分のことを話したりした。

1月：公開授業があり、前籍校の担任の先生が来校。クラス全員からの手紙を受け取り、集中して読んでいた。

2月：「By Talk」のチャットに前籍校の担任の先生も参加。クラスの様子を知らせる書き込みを読んでいる。

#### 【今後に向けて】

##### ○友達とのかかわりを広げる

- 年度当初は友達への関心が少なく、大人との関わりを求めていたが、友達との交流を深め、様々な体験をし、多くのことを学んだ1年間だった。入退院により在籍児童数の変化が大きく、友達との関わりは制約を受けるが、交流の場や機会を設定することにより、さらに体験を増やしていきたい。
- 対象児は認知の仕方や行動が个性的で、まわりの児童には理解されにくいところがある。前籍校に復帰したとき、友達とうまくかかわれるように、さまざまな場面で、行動を振り返り、自分を知り、どんなコミュニケーションが適切かなどを学べるようにしたい。また、友達との交流を進める中で、指導者(大人)の介在により対象児のよさとともに苦手とすることも伝えながら、まわりの理解が深まるようにしたい。

##### ○前籍校につなぐ

- 主治医の診断によると、今のところ退院・前籍校復帰は1年以上先になりそうである。本校在学中に前籍校との交流が途絶えてしまうと、戻りにくかったり、戻ってもうまくいかなかったりすることが、これまでの事例から予想される。今年度前籍校の友達や教職員と築いてきた関係をさらに深めたい。対象児の交流や復帰へのモチベーションを高めるとともに、前籍校の友達にも対象児に対する仲間意識をもてるよう取組をすすめたい。
- テレビ会議を活用し、今年度実施した交流に加え、簡単な挨拶や近況の交流、音読発表や学習のまとめの発表など学習における交流を行いたい。テレビ会議システムの活用にあたっては、前籍校の教室のコンピュータに簡単な操作で行えるよう(教室コンピュータから2クリックで接続)設定をしている。来年度、クラスや担任が替わっても、負担感なくテレビ会議を活用できるよう環境整備に努め、交流や授業配信を継続していきたい。
- 対象児が前籍校に行き、直接交流をする機会をもてるようにしたい。

※いずれの交流も、主治医、本人、保護者、前籍校との合意のもと年間計画を立てて進めていく。